

1 まちづくり懇談会 串原

日時：平成 29 年 11 月 24 日（金）午後 7 時～8 時半

場所：串原コミュニティセンター

4. 「はたらく」「たべる」「くらす」の政策について

■市長 串原は平成 17 年に 971 人だったのが、平成 28 年に 808 人。世帯数は 299 世帯だったのが、平成 23 年が底で増え始め、今 299 で、同じになった。世帯数が増えたということは、人口の減り幅が減った、要するにあまり減らなくなったと考えていい。ほかの地域では人口が減ると世帯も減っている。恵那市全体の 1 世帯当たりの人口は 2.8 人で、平成 17 年は串原は 3.25 人、28 年には 2.7 人。世帯が小さくなっている。

恵那市全体では平成 17 年を 100 とすると 9.6。串原地域は 16.8%減。串原より上は 8 カ所ある。串原より減り幅が大きいのは山岡、笠置、飯地、上矢作。上矢作が一番低い。人口が少し戻しているし、減り幅がなだらかになっている。串原地域は移住定住に頑張っているなのでその結果が表れている。

出生数。平成 17 年 5 人、7、4、2、7、4、4、7、4、3、7、6 で、生まれる子どもの数はものすごく減っているわけではなさそうだ。グラフは凸凹しているが、恵那市全体ではずっと減っているが、串原は増えたり減ったりしている。いい表れだ。

この地域の事業について。

公共林道の追沢線。概算事業費 2300 万円。220m。完了年度は 28、29 の 29 で、今年完了予定。今年予算は 1300 万円。

大竹松本線の道路改良、延長 400m、概算事業費 8900 万円で、完了予定は平成 32 年、29 年度は工事としては 150m で 1920 万円のところと、丈量 70 万を見ている。

豊田明智線は、横通で工事を今すでにやっている。一方通行になっている。もう一つ、愛知県側で、旭のバイパスでトンネルができるところ。先日市議会の方も含めて要望に行っていたが、トンネルに向けて今工事が動きつつある。

矢作ダム再生事業。今年の夏に採択の一報が入った。新規採択としていよいよスタートする。放流設備を増設する。今の放流能力 1300 立米から 2500 に増強。概算事業費 466 億円。放流設備増設 390 億円。架道の掘削 70 億円がいよいよスタートする。

買い物支援。すでにスタートしている。平成 26、27、28、29 で、29 年度もこういう形

で各地域を回っている。

有償運送の串原地域バスはうちの担当が今年5月から、5、6、7、8で検討会議を行っている。バスはすでに飯地町で空白地の有償運送をスタートしている。そういう形になると思うが、検討いただき、できるところは市としても取り組む。皆様と一緒にやりたい。

古民家リフォーム塾。空き家の数を見ると、平成20年に36軒あったのが、今年6軒。串原の皆さんはこういったことでは先進的な取り組みをしているし、日本中に大島さんが行っていらっしゃると思うが、先進事例として胸を張っていい取り組みだと思う。

ついこの間、中山太鼓にお邪魔した。ありがとうございました。先週ここで歌舞伎をやっていた。ふるさと祭りもここでやっているところにお邪魔した。もっとゆっくり来たいがすぐ帰ってしまって申し訳なかった。伝統芸能、食文化、へぼなど、こういったものは、今までは守るだけだったかもしれないが、これを使ってお客さんに来てもらう、買ってもらうという可能性があるので、これを大事にしていこうと思っている。へぼ祭りのとき申し上げたが、水野県議と2人でしゃべっていたのは、おそらく日本中でこれほど危険な祭りはないから、日本で一番危険な祭りとして登録してもいいんじゃないかと。そして、恵那農高さんがへぼミュージアムを作ってくれた。へぼという切り口も面白いし、地域の伝統、芸能、食、いろいろなものが混ざっている。これを守っていきたい。

布ぞうりも、ずっと取り組まれている。研究会は平成18年に取り組まれている。全国布ぞうりコンテストもずっとやっていらっしゃるし、布ぞうり教室もやっている。串原の温泉にもよく飾ってある。こういった取り組みがおそらくファンを作り、ここにまた足を運んでいただける。

先ほどもお話しいただいたささゆりの湯。私が現職のときからかわり、今年予算化ができ工事に入った。これをきっかけに再度10万人を超えるお客様に来ていただきたいと考えている。地域の皆様も確かクラウドファンディングとか土産物を作ろうといろいろ考えているので、ぜひ一緒になってやっていきたい。

串原の農業。恵那市全体の耕作放棄地は13.34%。串原では農地は155ha。そのうち耕作放棄地は20haで、12.9%。恵那市の平均より若干少ない。トマト農家が10戸ある。トマトに力が入っていると担当から聞いている。

これから先は皆様方のご意見を聴きながらこれを前に進めていきたい。

5. 意見交換

■司会 意見交換を行う。

■大島光利 2つお願いがある。一つは、今市で検討していると聞いているが、農地法の中の30aの縛り。これだとなかなか移住してきた人が大変だ。30a取得するのが大変だし、取得しても全て耕作するのは大変だ。特例でもいいので、1aでも2aでも登記でき

る形で進めていただきたい。

もう一つ。串原は遠いところから来ていただいている。青森、五島列島から来ていただいている。その人たちが来て串原で家を買われても、そこから通って自分の家をリフォームするというのは不可能だ。今市から借りた旧駐在所と結の住みかの2つに住んでもらいながらやっているが、結のすみかは非常に古い建物で、そこをリフォームするのは自分の力では何ともならない。ハード面も少しでも助成していただけるような事業を組み立てていただけるか、現在あるということなら、そこをご説明いただきたい。

■副市長 農地法は今検討している。特に移住定住で来た人が、大きな農地30aは無理だという話もある。移住定住に限り1aという緩和策を考えている。まだ議会に相談していない。事務局案として持っている。

住宅のリフォームは移住定住ではなくてということか。仮住まい。結構いろいろところで出ている。上矢作だとトマトの研修生を受け入れるような住宅を、教員住宅を開放してくれと。そこへひを入れて市でやってくれと言われている。これは市でやるというのは難しい。大島さんのところの自分たちで持っている住宅ということか。借りている施設。

■大島光利 現在持っているのは田舎暮らしの体験施設。そこへ来ていただいてそこへ住んでいていただいて、自分の借りた家を直すという施設だ。そういうものがないと遠いところから来て自分の家を直すということが不可能だ。豊田のあたりなら通えるが。そういう人たちがそこに住んで自分で家を直すという施設を今持っているが、古くなって雨漏りがしたりしている。そういうところのリフォームのお金は、助成金として出してもらえないか。

■副市長 今後検討する。

■市長 今の話は、恵那暮らしサポートセンターでもきっとあると思うので、ぜひ意見をまとめていただき、市に上げていただきたい。

■司会 転入した人の感想を聞きたい。松本地区の坂口さん。

■松本地区・坂口 5年前に串原の松本地区に移住した。移住のきっかけは大島さんが離されたリフォーム塾で、半年間、結の住みかのリフォームをすることで通って、そのうちに串原の自然の豊かさ、きれいさ、特に住んでいる人の良さ、松本地区の方と何回か親睦会をしたが、すごくいい人ばかりで、それが気に入って、一番最初参加したときは串原に来る予定ではなくよその空き家を探すつもりだったが、串原がよくなって移住してきた。リフォーム塾の元となる結の住みかも劣化してきていて、その辺の整備、これからも使用していくにはまだ修理しないといけないので、そこに住んで皆さんが田舎暮らしを体験しながら、遠い人は通えないので、そこを拠点にして串原に移住してもらうことが必要かと思う。

私もこちらへきて、恵那市全体、すごく自然が豊かで、山林もすごく広く豊かだが、死

んだ山が多く、それを整備しないといけないということで、里山づくりの活動もやりながらやっている。だが人手も足りなくて財源も足りないの、なかなか進んでいない。さきほど、ささゆりの湯のリフォームの話が出て、薪ボイラーを設置するとかしないとか噂で流れていたが、今のところ設置しない方向のようだが、恵那市の山林をきれいにするというのと木を生かすという目的で、薪ボイラーを設置する方向で、個人ではできないので、市の力を活用してできたらいいと思う。そういう事業は、環境整備もできるし山もきれいになるし、雇用も生まれる。僕らの仲間は20世帯ぐらい移住してきたが、同じような年代で、僕らがあと5年10年経って元気がなくなってきたら、またこの世帯数が減ったときが、僕らが来始めた頃。僕らが20世帯ぐらい入ってきて増えてきたと思う。今後の5、10年先を考えると、若い人も恵那の自然を大事にしながら移住できるような環境づくりが必要だと思う。考えていってほしい。自然を壊さないまちづくりをお願いしたい。

■市長 ありがとうございます。山の話を少しする。

ささゆりの湯では薪ボイラーのところまでは行ってなかったと思う。ただ、バイオマス、薪を使った山の循環の仕組みは、農業だけでなく山の中の循環の仕組みも考えられると思っている。具体的に何をやるというところまでは行っていないので、アイデアがあればお寄せいただきたい。市としても国、県の制度も活用してできることがあったら考えていきたい。

■松本地区・堀 中学校合併の話が昨年度ぐらいまで上がっていたが、今年度になってから水面下に入り何も聞こえてこない。その後どうなっているか。中学生の太鼓の授業が、地域の中で、地域愛を育てるのにとっても重要な役割を担っていて、お祭りには必ず帰ってくることになっているので、これが合併してなくなってしまうと、ここに戻ってくる若者が少なくなってしまうという危惧がある。

■市長 中学校の統合について。選挙の折にもあちこちで話が聞かれた。結論から言うと、やるやらないというより、最終的には皆さんがどちらが納得していただけるかが一番大事だ。昨年からの印象では、賛成で必ずやった方がいいと言われる方から、絶対反対と言われる方まで幅広い意見があった。これを一つにするのは大変だと思う。それをどう皆さんにきちんと説明できるようにしようと考えたとき、考え得る課題を全て一つずつ、これはこうなるということを説明できるようにして、その上で皆さん本当にやりますか、どうしますかということ聞くのが一番いいと思っている。そういった手順を踏んで、24、5項目の課題に対して、一つずつ検討している。皆様のところに情報が入らなくなったのは申し訳ない。やるならやるで、皆さんに納得していただける形にしない。祭りも、統合するならどのように残せる仕組みを作るかを説明してやりたい。そのため時間をいただいている。

■安藤 買い物支援について市の考えを聞きたい。今くるくるで週に何回か回っている。

軽の車なので、遅く来ると品物がなくなったりしている。市でしっかりした車を買って、曜日を決めて、恵那市、笠岡地域などを回れる施策は考えられないか。

人口減少対策。恵那市の人口がもうすぐ5万人を割る。何とか5万人を維持しないといけないということだが、今一生懸命移住定住で申原も頑張っているが、よその市町村もあの手この手でしっかりした施策をしている。恵那市も負けないような奇抜な、恵那市に来たら土地は確保しますよとか、家を作ったら今結婚おめでとう事業などをやっているが、そのお祝いの金額を上げるなど、よそに負けない施策ができないか。

■市長 買い物支援。25年ぐらいからスタートし、大体毎年、市としては200万円ぐらいの助成金を出して商工会にお願いしている。商工会の中で事業者、車を持って行ってもいいというところが何者かあり、交代で動いていただいている。かね周さん、またほんさん、三浦屋さん3者で720~730万の売上。この売上だと人1人あてて回すには足りていない。商工会も、もう少し売り上げが伸びれば考えられるという。200万円の補助金は、車をレンタカーで借りたら1年にこれぐらいかかるという費用を算定して車代として出して、買い物そのものの商品の仕入れ、販売はお店の自力でやってもらっている。今話を伺ったので、ぜひ地域としてもっとこういうふうに変えてくれとか、こういうものをたくさん持ってきてくれという話をいただければ、それが届くようにするし、商工会が受けきれないということなら市で考えるので、声を上げてほしい。

人口減少の抜本的な対策。まさにその通りだと思う。昨年市長になってからの一番の課題だ。目先の補助金も大切だし、はたらく、くらす、たべるといったものを総力戦で、全ての事業を、人口減少に対してどうもっていくかという視点でやっているつもりだ。ただ、いろいろなユニークなものも含めて抜本的にやることも大切なので、これから検討会を設けてメニューを作りたい。その節にはご意見をいただきたい。

■堀よしたく 先ほどの市長の説明で現状がよく分かった。はたらく、たべる、くらすという基本的なことについて、私個人で、はたらくということとくらすということについて、2つ提案したい。

はたらくということについては、10年から20年のサイクルで変わっていくのだろうと思う。私らでは手遅れなので、過去私らも子供を育てていた頃があり、学校で卒業を目前にすると進路のことになる。今も当時とそう変わらないと思うが、進路は高校なら2年生ぐらいから、学校と本人がどうするかというところで決まっていく。その結果この地域に残る人がほとんどいなくなり現在に至る。将来的な展望を捉え、恵那市の人口減少にどう対応するかということは、その辺からではないかと思う。あるいは中学校、高校ぐらいから、はたらくということ、これがあいまいだと、多分学校のあっせんしたところへ就職して、恵那市に残る人がなくなると思う。市長の話の中に、企業誘致や働く場所の確保という説明があった。求人は常に行われているわけで、求人と供給側との接点、学校に任せる

のではなく、自治体や教育委員会が、将来残ってもらいたいという親の気持ちも調整しながら、将来に向けての安定した働き場所に行けるような形が何とか考えられないか。

地域の暮らしについて。最近、農業関係も串原は零細なところが多いが、鳥獣害の被害がここ十数年続いている。数が相当増えてきている。外来の有害鳥獣、ハクビシン、アライグマも最近増えてきた。イノシシもある。イノシシも頭数がかかなり増えている。殺したりして減らすことも従来から行われているが、具体的にどれくらい減ってどれくらい増えているか分からない。動物の行動も習性も分からない。恵那農高の話もあった。研究をしていく必要もあるという気がする。シカやイノシシが街の中を走るというニュースが最近ある。そうなる前に、そういうものの習性、どうしたら被害が出なくなるか、将来的に考えないと、目前のものというわけにはいかないと思う。生態調査や学術的研究も入れた方がいい。イノシシは本当に山から出てくるのか。地域に住んでいるのではないか。市でそういう考えはあるか。多分あまり取り組んでいる自治体はないと思う。

■市長 はたらくということで、おっしゃった通りで、中学までは地元に行くが、たとえば中津の工業高校に行くと上から順に取られる。優秀な人はJR、中部電力に送ってということをするので、地元に残る子が少ない。これは前から言われている。私が現職のときは、市内の会社のパンフレットを作ってそういうところに見学に行ってくれとか紹介をさせてくれとか、いろいろなことをやってきた。ただ、日本人の社会的な価値観が全国的に統一されているので、テレビに映っている東京の六本木ヒルズの何階で働きたいというようなことを考える子が結構多く、ずいぶん苦勞をした。ただ、本当に今は、若い人も考えるようになって、地元を何とかしたいとか地元のために働きたいということをちよくちよく耳にするようになった。社会も変わってきたし皆さんの考え方も変わってきたと実感している。私たちはもっと地元で働くことや地域を守ること、多少給料が安くても地元の会社に就職するところなるというところをいい事例として紹介するなり、案内するなりして、そういうことに努めてまいりたい。いい話を聞いたので改めてテコ入れして事業を貼り付けていきたい。

鳥獣害については副市長がしゃべる。

■副市長 明智の馬坂の出身だ。土日には馬坂に行っている。なかなか田んぼがやれないので、今日出席の太田秀和さんに田んぼの畔刈りを全部やってもらっている。

一番鳥獣害があるのは上矢作で、特に手に負えないのはサル。人に害を与える事件が去年あった。最初モンキードックをやった。犬でサルを追う。10頭ほど入れたが、なかなかサルも逃げていかない。犬と一緒にいっちゃったということもあった。大きなおりに作って群れを一網打尽にしようと。これが上矢作のサルにはいい効果があった。サルの被害が比較的少なくなってきた。ハクビシン、アライグマについては、おりは貸し出しているが、実際にその効果はほとんどない。イノシシも、前は狩猟時期だけだったが、徹

底的に駆除したいという思いもあって、有害鳥獣の申請を出されればすぐ許可してやっている。先日豊田市長と話したが、両方で一緒に、県域関係なく一緒に対策しなければいけないと言っているが、実際にその効果は、私のところも、昨年もイノシシに入られたが、なかなか効果がない。一時期、映像を使って出る瞬間を撮ったりしたが、効果はない。岩村でそういう研究をしよう、追ってみようとやったが。国の補助金までもらってやっているが、なかなか効果がないので、おりを設置して猟師に捕ってもらうしかないと思っている。それについては補助金をつけてどんどんやりたいが、一方で猟師が減っている。串原も明智と一緒にやっているが。

もう一つ、猟師から言われているのは、イノシシを捕るとそれをどうするというで困っている。ほとんどが足助へ持って行って、足助で解体してもらって持ってくるか向こうで処分してもらう。ところが解体処分するのにkg700円。かなりの額が要る。それをさばくと大きい金額になる。イノシシ買うよりも牛肉買った方がいいということになる。うちとしてできることは、加工施設も応援していきたいので、案があれば言っていただければ、積極的に乗っていく。

■安藤 ジビエの関係とか、難しい問題もあるということですが、それは目先のことだ。岩村で調査されたということだが、具体的にどういう調査をされたのか知らないが、最近はいいい追跡装置もあって電池が2年ぐらいもつとか、動物の生態を探るのに使われている。こういったものはお金がかかるので、そういったものをある程度使って、おりに入ったものをみんなたたき殺すということではなく、たとえば、比較的小さなイノシシを1頭に限って追跡装置をつけて放すとか。電池の消耗が大体2年、3年と聞かすが、その時期が過ぎたら猟友会にそのデータを渡して追跡してターゲットにするとか。そういうやり方もあると思う。多少その間は被害も出るかもしれないが、行動範囲や獣の習性が探れる。それが分かって初めて防衛も考えられる。そういったことについては一般の我々には難しいので、産学というか、学問的に処理ができるようなことがどこかの自治体がやっていけばいいが、恵那市として先進的にできないのか。そういうことも思っている。

さらに最近シカも増えた。イノシシの柵では全然問題にならない。2mぐらい跳ぶ。それも増えると大変だ。1回に2頭以上生むので増える。猟師も、狩猟はある程度スポーツだと思う。これを専従的に駆除に回すのは無理がある気がする。そういったものを含めた中で対応することを考えないと、将来本当に大変なことになると思う。先進的なやり方を恵那市として構築してはどうか。要望する。

■副市長 学術的に調査したことはない。研究したこともない。どこかの大学とやったということは聞いたことはない。どんな事例があるのか検討してみる。そういう結果はこちらの振興事務所を通じてしたいと思う。

シカは5年ぐらい前までは雌シカを捕ってはいけなかった時期があった。増えてきたので今

は許可制になって、恵那市でも 300 頭ぐらいの許可が来ている。しかし、シカがどこにいるか分からないので捕れないと猟師が言っていた。学術的なことも含めて研究してみる価値がある。

■中沢・成瀬 大塩副市長の近所に住んでいる。はたらく、たべる、くらす。いい話を聞いた。一つ基本が欠けている。はたらくにしてもくらすにしてもたべるにしても、温泉に行くにしても道路がだめだ。県道については今日は割愛する。市道。交通安全、さんさん街道、そういう名目でボランティアで整備している。ところが、うちの地区は少子高齢化どころか限界集落で、交通安全の草刈りをすると言っても人が少ない。80 歳代を超えては出られない。自分のところの草刈りもできない状態になっている。市道が草がかぶってきてひどくなる。昔は副市長の上の発電所からずっと大馬渡まで刈ってあった。今は全然刈れない。自分の周りだけになった。そういう部分を、シルバーがせっかくあるので、そういうものをもっと活用していただければ地元住民がもうちょっと楽になるのではないか。それと、高齢者に心の負担をかけなくて済む。雨が降るのにこの間もやった。88 歳の人が出て来られたので、帰ってもらった。市道の話をするれば、副市長の下の道は私が 20 歳のときのままの広さ。もっと荒れたかもしれない。

なぜ道路のことを言うかという、中沢地区は、ミグ戦闘機が降りられるぐらいの道になっている。非常に広い。歩道までである。道路はやはりちゃんとしておかないとだめだ。明智駅まで行くのに昔 15 分かかったが今 7 分ちょっとで行ける。道路は暮らしていく上では基本中の基本。父が議会でお世話になっていて、道路がだめならだめだと常に言っていた。今それが身にしみる。旧恵那市内は大変良くなった。この辺は荒れることはあっても良くなることは少ない。県道も本当は直してほしい。せめて、温泉に来る道も、豊田から上がってくるのに、非常にカーブのきついところもある。せめて部分改良をしないと、どんないいアイデアを持ってもなかなか人が集まってこないと思う。ベルグラビアカントリーが一時期より大変増えた。富田さんという立て直し屋さんが来て尽力された。でもお客さんから聞くのは道が悪いということ。学校へ通う、会社へ通う、遊びに来る、救急車が来る。雪でも降れば命の危険を感じる。少しでも改良しないといい話が生きてこない。移住して来た人は感じていると思うが、道路が基本だと思うのでよろしく頼む。

■市長 私も常に国や県には申し上げている。今言われた通りだ。スライドの中で救急の話をした。恵那市の飯地は、救急車が出動して飯地で患者を乗せて病院に行くまで 1 時間以上かかる。こちらの方が条件的にいい。それは道路が直れば半分で済む。恵那市中、道路が良くなったのは本当に一部で、ほとんどのところが苦勞している。今のお話は身につまされる。地域の中で、串原の地区として、どこを優先するか議論してほしい。あれもこれも全部はできない。国や県の道路がかぶっていれば要望していく。力を合わせて上に対してものを申ししていきたい。声を上げてほしい。

■司会 1点だけ私から聞きたい。教育をもう一つの柱に入れてほしい。ただ単に教育と言っても漠然としているので、恵那市で働くと言うビジョンが見えるような、恵那市で企業誘致したり、同時に恵那市で働くというのはどういうことなのかを小さいうちから子どもたちに夢として持てるような教育をしていただければ、子どもたちも恵那市に残ったりよそからも来てくれるのではないかと思う。

■市長 おっしゃる通りで、教育は恵那市としては一番大切にしないといけない。道路、鳥獣害、温泉の話がある。基本的には投資という形で、税金をどういうところに使っていくと一番効果が出るかということだ。一番効果が出るのは教育だと僕は信じている。子どもにお金、手間、愛情をかけることで、その子がきちんとした大人になり、納税し地域を背負って、ゆくゆくはその次の世代につないでいくことになる。はたらく、たべる、くらすというのは一つのテーマだが、それを支えるものとして教育は外してはいけない。そこはもう少し長い目で施策として組み立てていきたい。感想だ。

6. 市長お礼のあいさつ

■市長 8時40分となった。長い時間活発な意見をいただきありがとうございました。ご意見はメモにしているし、市役所の中で共有して、直近の予算に反映していきたい。今日言えなかったことは振興事務所に声を寄せてほしい。その意見で私たちはよりいい恵那市づくりを考えていく。地域自治区協議会の皆様、ありがとうございました。こうした会を1年に最低1度はもっていきたい。

■司会 これで閉会する。

[閉 会]